

立命館経済學

第十四卷 第三号

昭和四十年八月

内 容

論 説

敗戦直後における通貨金融政策

の独占資本的性格……………武藤 守 一 1

A. スミス, D. リカードオ, J. S. ミルに

おける公債に関する理論の展開 I ……………箕浦 格 良 60

——古典学派における財政思想 (A)——

資 料

キム・スンジュン『南朝鮮における農地改革』……………87

学界動向 共同研究室

120

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十四卷・第一号

論説

民権運動研究の課題と方法……………後藤 靖

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅲ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(七)——

社会主義経済学の生成と発展(承前)木 原 正 雄

——「労働支出の法則」について——

資料

イタリア経済の動向……………足 立 政 男

書評

関弥三郎著『社会統計学』……………有 田 正 三

学界動向 共同研究室

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十三卷・第二号

論説

国家独占資本主義の研究手法……………手 島 正 毅

県外からの勤労所得による

県民所得統計の補正……………関 弥 三 郎

紹介

ツァゴロフ編『政治経済学教程、第

二巻、社会主義』とソ連邦における

社会主義政治経済学の体系をめぐる

論争……………小 野 一 郎

書評

梅津和郎著『現代国際経済理論』……………建 林 正 喜

学界動向 共同研究室

発行所 立命館大学人文科学研究所